

【オリコンサルら 3D都市モデルをまちづくりに活用 浜通り復興リビングラボ実証事業に参画】

3D都市モデルをまちづくりに活用

浜通り復興リビング
ラボ実証事業に参画



オリコンサルら

オリエンタルコンサルタンツは、復興庁の「浜通り復興リビングラボ」実証事業に参画し、福島県富岡町と浪江町の一部地区を対象に、3D都市モデルを使ったデータ連携基盤（デジタルプラットフォーム）の構築と、まちづくりに役立つ活用の在り方を検証している。

同リビングラボは、福島県の浜通り地域などで民間企業の最先端の知見や技術、ノウハウを最大限

に生かしながら、生活の場を実験場としてイノベーションを実装するプログラム。これを通じて、生活環境向上のための官民パートナーシップが同地域に成形されることを期待している。

オリエンタルコンサルタンツは、NTT-NEC、NTTインフラネットとコンソーシアムを組成し、2023年9月に同リビングラボ実証事業に応募・採択された。同地域など15市町村とのマッチング会議を経て、富岡、浪江両町を対象に「DX（デジタルトランスフ

オーメーション）を活用した行政・住民サービス事業の実証」をテーマに取り組んでいる。

2月28日には富岡町内で第2回「浜通りリビングラボ」シンポジウムが復興庁の主催で開催され、同コンソーシアムを含め七つの実証事業に取り組む民間企業9社と9市町村の進捗（しんちよく）などが報告された。同社からは志田山智弘地方創生事業部長が事例報告したほか、野崎秀則社長がハイレベル・セッションに参加。山本育男富岡町長、吉田栄光浪江町長、浅川正幸フジタ代表取締役兼専務執行役員らとの議論を通じて、市町村の広域連携の重要性を確認した一写真。